

今回は、9月から12月における学校安全の取り組みについて紹介します。

- 9月 2日(月) 緊急時対応訓練(スクールバス下校中、生徒の様態急変)
介助員、バス運転手の心肺蘇生研修を実施。
- 4日(水) 緊急時対応訓練(スクールバス下校中、生徒の様態急変)ビデオ視聴による検証。
- 10月30日(水) セーフティプロモーションスクール制度創設10周年記念シンポジウム参加。
- 11月19日(火) 小野市学校安全推進委員会参加。(視察報告、事故の検証)
- 9月~12月 第2回ヒヤリハット事例集約、検討。

<緊急時対応訓練(スクールバス)>

〇9月2日(月)に、「スクールバス下校中、窒息による生徒の様態急変」を想定して訓練を行った。

(ねらい)1つ目に、6月に視察に行った京都市立養徳小学校の「HANAモデル」を参考にして、本校独自の短冊を作成したものが、緊急時に有効なツールとして活用できるかどうかの検証を行うこと。

2つ目に、バス運転手や介助員の緊急時の動きの確認を介助員全員(5名)で行うこと。

※訓練を実施後、介助員6名とバス運転手2名は心肺蘇生研修を実施。

〇9月4日(水)放課後にビデオ視聴による検証を行った。

☆職員が緊張感をもって、訓練に取り組んでいた

- ・介助員やバス運転手は、心肺蘇生研修の回数が少なく、手順や必要な動きを確認しながら訓練に挑んでいた。
- ・本校職員は、職員室に集合した際、どの役割が当たるかは、本部指揮の臨機応変な対応に委ねられているので、もらった短冊の役割理解に全力を注いだ。

☆情報収集と指示の同時進行の難しさ、役割分担の大切さ

- ・事故の一報から、すぐ指示を出して現場に向かい、その間に詳しい情報を収集できるのが理想。
- 今回は、初めの電話で詳しい情報を聞き取るころまで、指示を出せずに職員が待機していたので応援に行くのがやや遅れた。
- ・現場も本部に連絡できるのが、運転手しかいなく、役割分担の難しさがある。
- ・必要伝達事項の絞り込みと、まず現場に急行するGOGO班2名の設定が必要。

☆短冊のメリット・デメリット

- ・役割がわかりやすい、落ち着いて確認できる。担任だけに負担が偏らなくて良い。
- ・文字ばかりで、イラスト等視覚的にわかりやすいほうが良い。
- ・短冊の裏が記録用紙になっていれば、時間や処置の記録が取りやすい。



<セーフティプロモーションスクール制度創設10周年記念シンポジウム>

10月30日(水)に、セーフティプロモーションスクール制度創設10周年記念シンポジウムに参加した。

記念行事では、文部科学省をはじめタイや中国からも来賓が来られていて、学校安全の広がりを実感した。

シンポジウムでは、大阪教育大学 学校安全推進センター長の藤田大輔教授の基調報告や、4市町の教育長講演があった。

4市町の取り組みは、規模や土地柄によって特色があり、充実した研修になった。

中でも、今後、小野市にも導入される「コミュニティスクール」の仕組みを活用した協働的な学校安全の取り組みの実践報告は大変興味深く、連携の参考になった。SPS 認証校が増えることで、更に交流が増え、安全意識の高揚につながると感じた。



<小野市学校安全推進委員会>

11月19日(火)に、小野市学校安全推進委員会に参加した。

○学校安全に係る視察報告

本校は、「大阪教育大学附属池田小学校の公開訓練(第2回、第3回)」

「京都市立養徳小学校の視察訪問と公開緊急時対応訓練」

「大阪府立中央支援学校の視察訪問」 の3つについて報告を行った。

○学校事故対応に関する指針【改訂版】について ・市教委より説明

○学校事故事例分析・検討

市内小中学校、各校1事例を持ち寄り、中学校区ごとにグループに分かれ、事故の検証について協議を行った。

様式は重大事故の報告用のものを使用。事故後の対応や次への改善について理解を深めることができた。

【グループ協議での感想、意見等】

- ・未然防止で、重大な事故が起きないことが1番大切。
- ・今回のように、重大事故を起こす前に、軽微な事故を整理し、複数人で検証・改善方法を考えていくことが重要。
- ・時系列を追って、話し合うことで、危機意識を持つポイントや段階が焦点化された。

小野市学校安全推進研修会(R6.11.19)
京都市立 養徳小学校
「HANAモデル(水泳事故)」
緊急時対応公開実地訓練 報告



<ヒヤリハット事例集の作成>

ハインリッヒの法則から、重大事故の未然防止のために「ヒヤリハットの集約」がいかに重要か共通理解を図り、定期的なヒヤリハット収集を実施している。



ヒヤリハット事例 「給食中に、食べ物に喉に詰まる」



1 発生時の状況と経過	3 考えられる原因
①時間・場所等 給食12:10ー 中学部生徒 男子 給食中 その日の昼立 ②経緯 キャベツの味噌汁、焼き魚、 山菜のきんぴら、牛乳 ③ヒヤリハットした事実 ・急にせき込みだして、詰まっていそう。 ④経過 ・席に正座になり、口から食べ物を吐き出した。	①考えられる具体的な原因 ・キャベツの味噌汁の具材が、給食提供時の 大きすぎたまま出てきたため、よく噛まずに 飲み込んだと考えられる。 ②発生時の背景による原因や要因 ・①と同じく、口からあまりよく噛んでいないことが 考えられる。
2 対応と処置	4 対策・改善点
①対応・処置 ・担任が背中をトントンと叩き、(脇く)口の中のもの を出そうとした。 ・口の奥に入っていたものが出てきたが苦しそうで、 せき込む。 ・豆乳、キャベツ味噌汁が給食提供時のまま出てきた。 ・1ー2分ぐったりしていたので休憩させながら、様子を 観察。 ・その後、様子が戻り、給食を再開した。 ・保護者に、給食時の様子を連絡し、帰宅後に様子を 見るように連絡。	①具体的な対策・改善点 ・よく噛んで食べることや、口の中に物が入った 状態ではしゃべらない、口いっぱい食べ物を入 れすぎないことを繰り返し伝えていく。 ・食べる際に、キャベツの芯など食材で固い物、 やや大きいものが入っていないか教師と一緒に 確認する。今後、緊急対応の研修後という こともあり教師の早い対応だった。

ヒヤリハットの収集は、定期的に収集し対応策を協議

- ・児童生徒の一人ひとりの支援におけるヒヤリハット。
- ・日常の生活場面からのヒヤリハット。
- ・各行事や学習活動に関わるヒヤリハット。など、
幅広い視点で収集、確認する。

また、収集、確認する時期によって教職員に危機意識を高めてもらう目的もある。

収集したヒヤリハットは、チーム会議や推進委員会で協議や対応案を共通理解する。

ヒヤリハット事例集を作成のため様式を整理

今年度は、ヒヤリハット事例集作成のため、前期に1人1事例を作成。夏季の小野市学校安全推進委員会で、市内の小中学校の先生方と事例の協議。

ヒヤリハット事例集の活用

今後、作成したヒヤリハット事例集が年間を通して活用できるように、場面や時期等で整理を行う。

毎年、事例を積み上げ、共通理解し、重大事故を防ぐツールにしていきたい。